

第 16 回名古屋産業大学 学位記授与式

第 53 回名古屋経営短期大学 学位記授与式 学長式辞

梅の花が満開となり、早咲きの桜の便りも届き始めた今日のおよき日に、博士、学士、短期大学士の学位を取得されました卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

また、長年にわたりお子様を立派に育てられ、見守ってこられました保護者の皆様、ご家族の皆様にも心より謹んでお祝いを申し上げます。

名古屋産業大学、名古屋経営短期大学を代表いたしまして、お祝いの式辞を申し上げます。

ご来賓の皆さまには大変お忙しい中、ご臨席を賜り、本学の学位授与式を盛大に執り行うことができますことを、心より感謝申し上げます。

そして、何よりも日々熱心に学生らに心をこめて愛情を注ぎ、学生らの強みを活かした職業教育にご尽力いただいております教職員の皆様に改めて感謝を申し上げます。

さて、昨年に続き大学・短大合同の学位記授与式となりました。同じ学び舎で学んだ同士として、お互いに祝ってもらいたいとの願いも込めて、昨年度から合同で実施しています。

本日、名古屋産業大学現代ビジネス学部の学部生 84 名、大学院博士課程 1 名、名古屋経営短期大学未来キャリア学科 55 名、子ども学科 24 名、健康福祉学科 23 名の計 187 名の皆さんが、学位記を授与されました。晴れてこの日を迎えられた皆さんに、心より門出の祝福を送りたいと思います。

今年度、菊武学園は創立 70 周年を迎え、大勢の方々に祝福していただきました。大学は 19 周年、短期大学は 54 周年を迎えました。本日までの卒業生は、大学院では 127 名、名古屋産業大学では 2,695 名、そして、創立して半世紀を超える名古屋経営短期大学は 1 万 2803 名の卒業生を数えます。

これだけ多くの優秀な卒業生が社会で活躍していることに大きな喜びを感じております。どうか皆さん、自信をもって社会で羽ばたいていただきたいと思います。

さて、ここ数年、本学では、愛情教育やインターンシップに力を入れ、実践教育を相互に展開していく中で、教職員、学生の交流もより深まってまいりました。

大学院生の方は 6 年間、学部生の皆さんは 4 年間、短大の皆さんは 2 年あるいは 3 年間、このキャンパスで、それぞれ思い出に残る青春の日々を過ごされたことと思います。

大学の皆さんが入学された 4 年前は、ラグビーワールドカップのイングランド大会で、日本代表が南アフリカを破り、世界を驚かせました。

また、選挙年齢が 18 歳に引き下げられ、皆さんも学生生活を送る中で、投票ができるようになり、政治を身近なものとして考えるようになったと思います。

子どもから高齢者まで、国民一人一人に番号を付ける「マイナンバー制度」も 4 年前にスタートしました。

皆さんが4月から社会に出るときに、きっとマイナンバーが必要となってくることでしょう。

短期大学の皆さんが入学された時期には、将棋の藤井聡太7段が、中学生でプロデビューを果たし、翌年には29連勝を達成して、日本最多記録を塗り替えました。身近な若者の活躍はきっと心に強く刻まれたことと思います。

皆さんは、そのような社会環境の中で、どのような学生生活を送り、何が一番心に響き、感動されたでしょうか。喜びを感じた瞬間、成長を感じた瞬間などは是非今、学生生活を振り返って下さい。

入学の時、自分で学びの方向性を決めるマイカリキュラムやゼミの先生と少人数で学ぶ学修方法に、高校時代とは違う新鮮さを覚えたと思います。また、様々な分野で社会の一線で活躍された先生方から学んだ実践教育は、数多くの気づきがあったことでしょう。

大学では、4年前にスポーツビジネスコースを新設し、皆さんが初めての卒業生となります。就職先も今ではスポーツ関連の企業が増え、日本で初めての女子プロ野球チームの運営会社に就職される方、Jリーグサッカーチームのコーチになられる方、また、社会人野球に参入する名古屋矢場とんのチームに入社する方々もいらっしゃいます。

新しい試みに皆さんが十分に応え、スポーツ分野に活動の場を獲得し、巣立っていくことに、大いなる喜びを感じています。

全ての卒業生の皆さんには、社会に出てから活躍していただくために、将来に向けて創造する力、自立する力を身につけてもらいたいと日々常々願い、学生生活の中に社会と触れ合う機会を多く作り、カリキュラムの中にインターンシップや実習、また、自分自身の自信とスキルを高めてほしいという願いから、資格取得科目を幅広く取り入れてきました。

長野県阿智村での農山村インターンシップをはじめ、尾張旭市などさまざまな企業や団体、さらにオーストラリア・シドニーでの海外インターンシップに挑戦した学生らのインターンシップ報告会では、働くことの大切さやコミュニケーション能力を向上させたことが強く伝わってきました。

短大の皆さんの中には、目的意識を持って猛勉強し、その頑張りで見事、国家資格をはじめ、多くの資格を取得された方、フィールド別学習で専門知識を修得し、自信がついた方も数多くいらっしゃいます。

手作りの紙芝居や絵本の読み上げで、園児たちを大喜びさせ、保育の力をつけ、地元の尾張旭市の保育園へ進む方、実習や保育イベントを通して保育の力を高めた方も多くいらっしゃいます。後に続く後輩らの良き見本となっていくことでしょう。

健康福祉学科の皆さんは、地元の高齢者との交流や、施設実習で「ありがとう」と利用者の方から温かい言葉をかけていただいたときの皆さんの笑顔はとても輝いていたと思います。

先週3月11日、東日本大震災の追悼が行われている宮城県気仙沼市にて、大学短大との合同ボランティア隊が追悼式典に参加しました。

サクラの植樹などのボランティアや、被災者の方々の実際にあった話や言葉に涙し、命の尊さを学ばれ

たと思います。皆さんが帰ってきたときの表情は大変たくましく感じられました。

その他にも、学業、部活動、サークル、ボランティア、ゼミ活動、海外や国内の研修、大学祭などの学校行事などで活躍された方も多くいらっしゃいました。それらの経験は必ず皆さんの人生の大きな糧になると信じています。

皆さんは明日から、社会に巣立っていかれます。これから日本は、来年の東京五輪を目標に、インターネット情報社会と人工知能とを組み合わせた、ロボットの世界などの新しい時代が加速されることでしょう。

4月中旬には、大学のすぐ近くの尾張旭駅と長久手市を結ぶ自動運転バスの試験運転も始まります。実用化の一步手前まで来ています。

社会に巣立てば、数々の壁や困難に直面することも少なくありません。実社会の荒波を乗り越えられるか不安を感じることも多いでしょう。

そのような時は、本学で学ばれた実践教育、先生方から受けた「愛情教育」が皆さんを助け、困難に立ち向かうときの大きな力になるはずです。

結びに、私が感銘を受けた言葉を一つお伝えします。70周年記念講演でお招きした、千日回峰行を達せられた大阿闍梨 塩沼亮潤住職のお言葉です。

それは「現実を受け入れ、精一杯生きていると、そこに道が開けてくる」というものです。もう一度言います、「現実を受け入れ、精一杯生きていると、そこに道が開けてくる」というお言葉です。

これから、卒業生のみなさんが歩む道は、決して平坦な道ばかりではなく、辛い事や苦しい事もあると思います。努力は人を裏切りません。目的意識をしっかり持って着実に150%の努力で、愛を持って、夢や希望をかなえて下さい。

愛情教育と実践教育で得た社会で生きる力で未来の可能性を切り開き、皆さんの人生が愛情に満ち溢れた、輝かしい日々となりますことを心から祈りまして、私からのお祝いの式辞といたします。本日はおめでとうございます。

平成31年3月16日

学校法人菊武学園

名古屋産業大学 名古屋経営短期大学学長

高木弘恵